

本の紹介



遠山恭司 山本篤民 編著

本書は、地場産業における新規参入者の動きに着目し、その起点となる職業・技能訓練の場である「産地スクール」を通じた人材育成と、地域産業への貢献のプロセスを明らかにした研究書です。

序章では、本書のもう1

つの中核概念である「創造的クラフト」について整理しています。これは、手仕事による少量生産を基盤としながら、趣味的工芸にとどまら

ず、独自の創造性と商品性を備え、経済的・社会的価値を生み出す活動を指します。

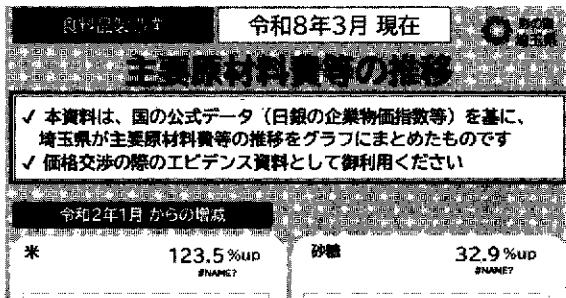
第1部では、産地スクールの役割や修了生の起業活動の実態について、調査結果を基に詳細に分析します。第2部では、美濃焼や

笠間陶磁器、飛騨・旭川の家具、豊岡カバンといった各産地の事例を通じて、創造的クラフトが地域資源や人的ネットワークを活用しながら展開される実態を具体的に示しています。本書では、地域外の若者など、産地スクールを紹介した多様な人材の参入が地場産業の新陳代謝を促し、技能継承や人材供給にとどまらず、創造的クラフトの源泉として機能していることを明らかにしています。

縮小・衰退傾向にある地場産業の新たな可能性を提示する本書は、地場産業を単なる生産の場としてではなく、キャリア形成や自己表現の場として再評価する視点を提供する1冊です。
(株)同友館、A5判344ページ、定価3520円(税込)。

オール埼玉で

現在、アメリカ力によるイランへの攻撃を背景に中東情勢の緊張が高まり、原油供給への懸念も強まってい



着眼 着手

わが社はこの4月で56期を迎えています。私は2代目で、父が創業した会社を30期の時に社長交代しました。社長を引き継いだ初年度は、過去最高の利益を出しており、経営は簡単だとてんぐとなつたことが社長としてのスタートでした。しかし、それから順風満帆とはいかず2度の経営危機がありました。

最初の危機は社長となつて3年後。業界の外的要因も重なって2年間で約6千万円の赤字を出し、銀行からの融資も断られ、経営改善計画書を作成しないといけな

ときから私は人、社員が一番大切だと感じ、「人を生かす経営」に取り組みむきっかけとなりました。そして2回目の経営危機は、13年前に福岡市から糸島市へ移転したと

る勉強会で学んだ「見える化経営」を取り入れた。全社員に会社の決算を開示して全員で乗り越えるようにし、翌々年からは黒字経営へと転換することができました。

経営危機から生まれた「人を生かす経営」

らいの状態に陥りました。役員報酬の減額はもちろん、あらゆる経費削減をしたのは社員の給与減額でした。そのときに励ましてくれたのは当時一番若かった社員！ その



き、初年度に1億円以上の赤字となりました。このとき、福岡同友会のあ

社員の働く意識も高まつたと感じています。コロナ禍の時も、コロナ融資の1億円を会社をよくするために使おうと、社員に全て任せて工場のレイアウト変更や機械設備に使いました。結